

定期点検の地域一括発注を試行

第3回福井県道路メンテナンス会議開く

福井県道路メンテナンス会議（会長・森久保司福井河川国道事務所長）の第3回会合は

25日、越前市役所生涯学習センターで開催され、写真上、今後急増する定期点検に対応す



るため、地域一括発注を採用することを承認し16年度以降の本格運用へ、今年度から15年度にかけてその試行を重ねていく方針だ。

地域一括発注により、とくに人手不足や技術不足が懸念される市町の定期点検業務の効率化を目指す。とりわけ点検機材のリース代

節約や技術ノウハウの円滑な伝授を見込み、

またコンサル委託する際の不調不落対策にもつながるものと期待。

会議では越前市から点検に当って大学（学生）と連携する有効性や、福井市からはコンサル

（機材）数の現状把握の質問が出された。

今後は地域一括発注を専門に検討する分科会を設け、丹南土木管内（丹南土木、越前市、南越前町、池田町）を

モデルケースに試行開始。15年度には一括発注業務の流れや県の作業量、市町の役割などの把握に努め、試行による問題点を抽出し可能性を最終判断。有効と認めれば本格運用に踏み切る方針。

また会議では定期点検のとりまとめについて来年1月に点検対象すべての5カ年計画を国土交通省に提出するなどし、公表も社会的な使命などとした。このほか道路メンテナンス研修（全9回で延べ377人参加）や跨道施設連絡会議（下部組織として高速自動車国

道など管理者で構成）の設置、道路の老朽化パネル展、各機関からの情報提供（災害対策基本法の一部改正）などを報告し、全参加者の共通認識とした。

なお、24日には第9回道路メンテナンス研修が日野川に架かる方代橋（越前市錦町）村国2丁目）において実施された。写真下。今回初めて福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）と共催され、計30人が参加。万代橋で進む橋脚耐震補強工事の炭素繊維シート貼付状況などを現場から直接学んだ。